



約50人が参加した「世界文化遺産地域連携会議」の発足会=7日午前、都内

世界遺産地域連携会議が発足

齋藤日光市長、副会長に

国内外で共同PR目指す

文化遺産の長期的な保護や観光活性化などを旨とする「世界文化遺産地域連携会議」の発足会が7日、東京・平河町の都道府県会館で開かれた。門川大作京都市長が会長に、齋藤文夫日光市長ら5人が副会長に就任した。今後は意見交換を行い、1年後をめどに国への要望活動を行うほか、国内外でのPRなど共同事業の実施を目指している。

役員選任後、門川会長は「遺産を千年後に伝えていくためにも各自治体が一致団結し、前進していきたい」と抱負を述べた。日光市長代理で出席した同市の海老原忠観光交流課長は「合併で観光資源が増えたが日光社寺が中心であることに変わりはない。内部だけで解決できない問題もある。皆さんの力をお借りしたい」と語った。また、民間の立場で参加したNPO法人「日光門前まちづくり」の岡井健理事長は「情報交換に期待している」と話した。

元首長22人のほか、まちづくりや観光振興に取り組むNPO、企業関係者、文化財関連の有識者など約100人で構成している。(高橋淳)